

(地域施策推進事業)

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主体	事 業 対 象 者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果及び 住民の満足度	今後の課題及び 取組方向
総務企画部	中嶋 敬子	地域企画課	企画・地域 振 興 班	佐々木 源	018- 860- 3313	環 八 郎 湖 ・ 水 の 郷 創 出 プ ロ ジ ェ ク ト	八郎湖及び流域の自然再生活動を自立的かつ持続的なものとするため、地域住民が主体となった活動への支援や、子どもたちへの環境教育等を行う。	2,047,157	直 営 ・ 委 託	・八郎湖流域の住民団体の環境活動に対する助成(5団体に助成) ・八郎湖流域小学校での出前授業(委託先:NPO法人はちろうプロジェクト、実施回数:17回649名受講)	県	八郎湖流域の住民団体、地域住民	平成26年4月1日	助成事業については、住民団体が八郎湖の環境保全に関する各種イベントを実施することで、地域住民の環境意識の向上を図ることができた。 環境学習については、これまで延べ14千人を超える子どもたちが受講している。出前授業で八郎湖に興味を持って、県立大学に入学し八郎湖の研究を始めた子どもなども出てきているほか、県立大学に八郎湖関連のサークルが新たに立ち上がるなど、これまでの取組の成果が徐々にできてきている。	八郎湖の環境保全活動を持続的なものにしていくためには、人材の育成確保が重要であり、関係機関が連携するプラットフォームの強化に取り組む必要がある。 環境学習については、地域によって温度差もあることから、緊急雇用事業で作成した学習教材なども活用しながら、流域小学校へのPRを更に進めていく必要がある。
						平成26年4月 ～ 平成27年3月							平成27年10月30日		
総務企画部	中嶋 敬子	地域企画課	県民生活・ 産 業 班	宇佐美 元 気	018- 860- 3319	ヤ マ ビ ル 被 害 対 策 事 業	生活域に拡大しつつあるヤマビルの吸血被害を防止するため、重点防除地区への薬剤配布を行うとともに、地域住民を対象とした講習会などにより、ヤマビルへの対処方法の普及啓発を行う。	979,992	直 営 ・ 委 託	①重点防除地域への駆除剤の配付 ・秋田市、湯上市、五城目町、井川町の計9地区 ②地域住民等を対象としたヤマビル被害対策講習会の開催(5/17-18 参加者79名) ③ヤマビル被害対策連絡会議(3/17開催 参加者20名)	県	地域住民	平成26年4月1日	重点防除地区への新薬剤の配布により、従来剤より効果的な駆除を行うことができたと共に、薬剤散布者が悩まされていた薬剤の臭いによる体調不良等が改善された。 地域住民等を対象とした講習会の開催を通じて、ヤマビルの生態や吸血被害対策など、正しい知識を広く普及することができた。 被害対策連絡会議では、各関係者の取組などについて情報共有することができた。	ヤマビルの生息域は年々拡大傾向にあり、重点防除地区への薬剤配布のみでは対処が難しいのが現状である。 そのため、関係機関等と連携しながら、地域住民等に対して「ダウンヒル」等を利用した被害対策の実施や、森林整備などによるヤマビルの生息しにくい環境整備の必要性などを周知徹底していく必要がある。
						平成26年4月 ～ 平成27年3月							平成27年10月30日		
福祉環境部	伊藤善信	健康・ 防 護 課	健康・ 防 護 班	熊谷政子	018- 855- 5170	心の健康づくり支援事業	自殺者の減少を図るため、メンタルヘルスサポーターの養成やフォローアップ研修会を開催する。	321,418	直 営	メンタルヘルスサポーター養成セミナー(6/18、6/23、6/30 参加者延べ133名) フォローアップ研修会(2/3 参加者83名) こころはれれば通信(8,500部 年4回発行)	県	管内住民及びメンタルヘルスサポーター	平成26年4月1日	地域で活動しているメンタルヘルスサポーターは351名となり、今年度は養成セミナーの受講者が多かった。メンタルヘルスサポーターは、各地でサロンやキャンペーン等の活動を実践している。管内の自殺率は、管内で最も自殺者が多かったH14年と比較すると約半減した。フォローアップ研修会のアンケートでは、他市町村の活動を知ることができて、大変参考になったという意見が多く、好評であった。	これまで養成してきたメンタルヘルスサポーターについて、自殺予防を中心に活動してきたが、認知症や引きこもり等の地域の新たな課題にも活動を拡大していくことが期待される。 このため、メンタルサポーターの研修会にこれらのテーマを加え、強化していく必要がある。
						平成26年4月 ～ 平成27年3月							平成27年10月30日		

部名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費(円)	委託・負担金・直営	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日(部局長会議等)及び評価確定日	事業の効果及び住民の満足度	今後の課題及び取組方向
福祉環境部	伊藤善信	健康予防課	健康・予防班	佐藤望	018-855-5170	地域における結核患者服薬支援事業	結核患者の服薬治療完遂を図るため、結核患者を対象にした地域DOTSを実施する。	100,502	直営・委託	薬局DOTSの実施・訪問DOTS:1名(治療完了1名)・治療評価:年1回(主治医、保健所、DOTS薬剤師)	県	地域住民	平成26年4月1日	「地域DOTS」は、関係機関が連携して服薬指導することにより、対象者は服薬中断することなく治療を遂行できた。	地域DOTSについては、参加薬局が少ないことから、多くの薬局に周知を図る必要がある。
						平成26年4月～平成27年3月							平成27年10月30日		
福祉環境部	伊藤善信	環境指導課	環境・食品衛生班	佐藤徹也	018-855-5173	クリーンな秋田づくり事業(福祉環境部)	不法投棄などによる景観悪化を防止するため、子どもたちへの学習・啓発活動として、管内の小中学生に対して環境保全に係る出前授業等を実施する。	69,750	直営	①学習・啓発活動(6/23:男鹿市立北陽小学校4年生9名、7/18:湯上市立出戸小学校4年生43名) ②管内小学4年生全員に廃棄物リサイクルに関連したエコグッズを配布。	県	地域住民	平成26年4月1日	環境学習会を開催した小学校2校では、児童・教職員にとって目新しい情報、話題に触れる機会になったことから好評を得た。クリアファイル作成に当たり盛り込む情報を得るために県内のリサイクル業者等と連携し、また配布に当たり管内教育委員会等の協力を得たことは有意義であった。クリアファイルは児童、教職員に好評で、継続を望む声もあった。	環境学習会については、今年度開催した2校を除く管内15校(H26年度末現在)に対し、継続して実施して参りたい。ごみの適正処理に関するわかりやすい情報提供の方法をさらに検討していく。
						平成26年4月～平成26年7月							平成27年10月30日		
農林部	松橋秀男	農業振興課	担い手経営班	工藤英明	018-860-3413	トップブランドを目指した園芸作物の産地づくりプロジェクト	園芸作物の産地としてのブランドを確立するため、園芸メガ団地において生産技術指導を行う。	366,097	直営	①実証圃の設置 ・雄和平沢地区(ダリア新品種の栽培技術の習得) ・男鹿船越地区(キクと大豆のブロックローテーション体制の確立) ②先進地視察 ・視察先:愛知県田原市 ・日時:/H26.9.30~10.1 ・目的:大規模キク団地の運営方法等について視察	県	地域住民	平成26年4月1日	園芸メガ団地での新たな作物導入に係る栽培技術の習得や団地運営のノウハウ、また共同選花場運営について情報収集でき、営農開始に向けての準備体制が整った。	初期の団地運営に係る体制が整備されたことから、今後は、団地プロジェクト会議(JA事務局)と連携し、各種相談や支援活動を実施していく。
						平成26年4月～平成27年3月							平成27年10月30日		
農林部	松橋秀男	森づくり推進課	林業振興班	油座壘	018-860-3381	クリーンな秋田づくり事業(農林部)	「夕日の松原」の環境美化を図るため、地域住民・企業等との協働によるクリーンアップ活動や地域小学校と連携した自然環境学習を実施する。	182,656	直営・委託	・「夕日の松原」クリーンアップ事業(10/11(土)、参加者:566人(関係企業・団体・秋田市民・湯上市民)、収集量:一般ごみ1,130kg)	県	企業・団体・地域住民	平成26年4月1日	毎年継続してクリーンアップを行うことにより、環境美化意識の向上や海岸松林の保全推進に貢献している。将来の地域を支える子供達に環境学習を行うことにより、松林の大切さを知ってもらうことができた。	今後も保安林の機能維持と環境美化意識の向上のため、継続した取組が必要である。
						平成26年4月～平成26年10月							平成27年10月30日		

(地域観光施策推進事業)

部名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費(円)	委託・負担金・直営	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日(部局長会議等)及び評価確定日	事業の効果及び住民の満足度	今後の課題及び取組方向
総務企画部	中嶋 敬子	地域企画課	企画・地域振興班	佐藤博美	018-860-3313	“男鹿半島の郷”ロードマップ作成事業	男鹿半島の活性化を図るため、旅行者のコア層である女性をターゲットとした観光プロモーション等を行う。	103,140	委託	男鹿地域の食や温泉などの女性向け観光情報を掲載したロードマップの作成	県	観光客	平成26年4月1日	県外客が多く訪れる国民文化祭前に作成し、管内の観光施設に設置したことで、多くの観光客に配布することができた。	観光客のコア層は女性であることから、H27年度は女性が好む「食」に関する情報発信を中心に行うこととしている。
						平成26年4月～平成27年3月							平成27年10月30日		
総務企画部	中嶋 敬子	地域企画課	企画・地域振興班	佐藤博美	018-860-3313	“男鹿半島の郷”情報発信事業	男鹿半島の活性化を図るため、旅行者のコア層である女性をターゲットとした観光情報の発信を行う。	228,000	直営	女性向けフリーペーパー「マリマリ」を活用した男鹿地域の観光情報の発信	県	県民(特に女性)	平成26年4月1日	観光客が落ち込む冬場に男鹿地域の観光情報を提供し、男鹿地域の魅力を発信することができた。	冬場は観光客が落ち込むことから、観光客の減少対策が課題。H27年度は、秋から冬にかけて、女性向けのランチスタンプラリーを行うこととしている。
						平成26年4月～平成27年3月							平成27年10月30日		
総務企画部	中嶋 敬子	地域企画課	企画・地域振興班	佐藤博美・土門純子	018-860-3313	“男鹿半島の郷”プロモーション支援事業	男鹿半島の活性化を図るため、旅行者のコア層である女性をターゲットとした観光情報アイテムの作成を行う。	503,049	委託・直営	・男鹿半島をイメージしたシンボルマークの作成 ・観光案内人交流会の開催	県	県民、観光案内人	平成26年4月1日	・県内外から350件を超える応募があった。さらに最終選定には男鹿市の女子中学生が関わるなど、多くの方々が関わって作成することができた。 ・管内観光案内人の交流会を開催し、スキルアップと連携強化を図った。	・完成したシンボルマークを活用し、男鹿市等と連携して男鹿地域の観光プロモーション等に活用することとしている。 ・観光案内人の交流会については、参加団体が固定化してきていることから、広がりを持たせていく必要がある。
						平成26年4月～平成27年3月							平成27年10月30日		
総務企画部	中嶋 敬子	地域企画課	企画・地域振興班	佐藤博美・土門純子	018-860-3313	おいでよ男鹿半島！魅力発信事業	隣県や首都圏からの誘客を促進するため、観光プロモーション等により管内の観光物産情報を発信する。	513,271	直営	・隣県をターゲットとしたプロモーション活動 ・首都圏のイベント等での観光情報発信	県	観光客	平成26年4月1日	隣県や首都圏でのプロモーションを実施し、男鹿半島をはじめ管内の魅力を発信した。	・引き続き隣県等を中心としてプロモーションを行うこととしているが、プロモーションを行う場所等を見直すこととしている。
						平成26年4月～平成27年3月							平成27年10月30日		

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主体	事 業 対 象 者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果及び 住民の満足度	今後の課題及び 取組方向
総務企画部	中嶋 敬子	地域企画課	企画・地域 振 興 班	土 門 純 子	018- 860- 3313	地 域 の “ 食 ” ブラッシュアップ事業	魅力ある商品づくりを行う ことで、売上の増加及び 観光客の満足度向上を図 る。	367,460	直 営	・食品加工アドバイザーを 3回派遣し、加工品の開 発及び改良を支援。	県	食品加工 事業者	平成26年4月1日	地域の農水産物加工品の 開発や改良を支援するた め、専門家をアドバイザー として派遣し支援を行っ た。	連続で派遣することで継 続性をもったサポートがで き、事業者からも好評で あったことから、今後も同 様な仕組みで実施してい きたい。 課題としては、事業者のイ メージが具体的かどうか が鍵となることから、募集 時点で事業者に対し、丁 寧に説明していく必要が ある。
						平成26年10月 ～ 平成27年3月							平成27年10月30日		
総務企画部	中嶋 敬子	地域企画課	企画・地域 振 興 班	土 門 純 子	018- 860- 3313	男 鹿 椿 ブ ラ ン ド の “ 食 ” 強 化 事 業	民宿の魅力を高めること により、宿泊客の満足度 の向上とリピーターの増加 を図る。	396,017	直 営	・男鹿半島の民宿を対象 に、女性が喜ぶ食のサー ビス提供についての研修 を開催。	県	民宿及び 飲食店の 経営者	平成26年4月1日	男鹿地域のホスピタリ ティーの強化のため、民 宿を対象とした食のサー ビス提供の研修会を開催 し、とっておきレシビの検 討会を実施。最終回に は、完成したレシビを関係 者にお披露目した。	民宿の経営者等が自ら検 討したレシビ開発というこ とで、経営者の意識は高 まったと感じたところであ るが、経営者の高齢化も あり、それをいかに継続し ていくかが課題である。
						平成26年4月 ～ 平成26年7月							平成27年10月30日		